

JAQG 協賛メンバー訪問 ー株アオキ様ー

東大阪の小さな町工場が人工衛星を打ち上げた——テレビドラマ「下町ロケット」のモデルにもなった衛星開発プロジェクト「まいど一号」。その旗振り役を務めたのが、今回訪問した株式会社アオキの先代社長（現会長）です。「続けることが強いことである」を社是に掲げる同社は、現在では航空機部品メーカーとしてボーイングやエアバス、JAXA といった名だたる企業と取引を行っています。

JAQG はこの度、協賛メンバー企業を訪問し、現場の生の声を伺う企画の第一弾として、株式会社アオキ様を訪問しました。

1. はじめに

航空宇宙品質センター（JAQG）は 2001 年の創設から 25 周年を迎えます。この記念企画の一環として、協賛メンバー様への訪問を開始しました。

JAQG では年に一度、活動報告会を行い、多くのメンバーの方にご参加いただいておりますが、各協賛メンバーの方の声を十分に拾い上げられていないのではないか、という問題意識がありました。

本企画は、9100 規格の動向などについて率直な意見交換を行い、協賛メンバーの方の現場の声を拾い上げるとともに、IAQG や JAQG に対して親近感を持っていただくことを目的としており、話しやすい雰囲気となることを心掛けました。訪問先については、昨年度の活動報告会時にアンケートを取り、JAQG 訪問の受け入れをしていただける協賛メンバーの方とさせていただいております。

この企画の第一弾として、2026 年 7 月 8 日、株式会社アオキ様（大阪府東大阪市高井田中 5 丁目 7 番 3 号、代表取締役社長 青木理様）への訪問を実施いたしました。

2. 株式会社アオキ様のご紹介

同社は昭和 36 年 6 月 10 日創立、資本金 1,000 万円、従業員 18 名（実習生/パート含）、役員 6 名の会社です。機械装置の設計製造を出発点に、現在は航空機部品（金属加工、複合材加工）を主力製品としています。取引先には新明和工業様、エアバス・ヘリコプターズ・ジャパン様、JAXA 様などが名を連ね、ボーイング 787、777、777X の部品も手がけています。1997 年 1 月にボーイング社工場認定、2007 年 5 月に Nadcap 認証、2010 年 3 月に JIS Q 9100 認証をそれぞれ取得しており、高度な認証取得の実績が同社の高い技術力を裏付けています。

先代社長（現会長）は、「まいど一号」の旗振り役を務めた方であり、現社長も「続けることが強いことである」を社是として事業の継続性を重視され、この地域で強いリーダーシップを示され

ています。

当日は青木社長がご多忙のため、ご挨拶のみとなりましたが、面談には若林経営企画マネージャー、飯田品質保証グループ長にご対応いただきました。JAQGからは新明和工業株式会社 友清品質保証部長、株式会社島津製作所 古賀品質保証部長にご参加いただきました。



右側：（左から）青木社長、飯田グループ長、若林マネージャー（㈱アオキ）

左側：（左から）城福（SJAC）、友清部長（新明和工業㈱）、古賀部長（㈱島津製作所）

3. JAQG 説明

当日のアジェンダに沿って概要をご紹介します。



3.1 JAQG って何をしているのか

JAQG 事務局より IAQG や JAQG の活動についてご紹介しました。IAQG の各メンバーは自社の業務を持ちながらボランティアで活動していること、9100 シリーズ規格の開発には JAQG メンバーも主体的に参加していること、要望や疑問があれば JAQG にお問い合わせいただきたいことをお伝えしました。

3.2 規格の最新動向

9100 規格については、新明和工業株式会社の友清部長がご説明されました。2026 年 2 月の JAQG 活動報告会で用いた資料をベースに、友清部長のご経験も踏まえた解説を交えながらのご説明でした。

9150 規格については、株式会社島津製作所の古賀部長がご説明されました。この規格は特に中小企業向けの規格として IAQG が開発中のもので、具体的な内容についてはまだ明確でないため、概要のご紹介にとどまりました。9150 規格は 9001 と 9100 と異なる新規格であり、9150 を取得しても 9001 の取得とはならないため、9001 の認証も必要とする企業にはあまり適していないかもしれない、というご感想でした。

4. 意見交換

雑談を含め、様々なお話を伺いました。特に印象に残った点をご紹介します。

4.1 内部監査員の育成

内部監査員の育成には苦心しているとのコメントがありました。特に 9100 における「有効性」という概念の伝え方には腐心しており、認証機関からのアドバイスも受けながら試行錯誤をされているとのことでした。

4.2 「自分の仕事が空を飛ぶ」を実感してもらうには

航空機部品を扱っているため安全性には人一倍気を使っており、人命に関わるものであるという教育は行っています。一方で、扱っている部品単位ではなかなか実感を持たず、どのように緊張感を持たせるかが課題の一つとのことでした。

そうした中、新明和工業様のご協力により工場見学が実現し、自社が手がけた部品がどのように使われているかを確認する機会が得られ、従業員のモチベーションが大きく向上したとのことでした。

4.3 JAQG への期待、そして新しいツールのご紹介

JAQG 活動への期待についても伺いました。SCMH や Nadcap の AC チェックリストの和訳は活用いただいているとのことでした。一方、OASIS 登録料金の値上げにも関連する OASIS Insight については、まだ活用されていないとのことでしたので、この場でご紹介するとともに、IAQG が普及に力を入れている AIMM についても併せてご紹介しました。OASIS Insight は業界内での自社の位置づけを示し、AIMM や SCMH と接続して改善のヒントを得られる有意義なツールであることをお伝えしました。



(写真：工場入口にて／左から 友清部長（新明和工業株式会社）、飯田グループ長、若林マネージャー（株式会社アオキ）、古賀部長（株式会社島津製作所））

5. 株式会社アオキ様からの声

アオキの経営理念には、「最強の中小企業をめざします。」との言葉を盛り込んでいます、ここには持続可能な経営体質を構築することが、最強であるとの考えからです。生命の進化でも力の強いものが生き残るのではなく、環境に順応したものが生き残るとの考え方も含まれています。今後の

アオキは、様々な世界情勢の変化にも順応し、社会に求められ、必要とされる企業を目指して参ります。

アオキは航空機に携わって、30 年以上になります。それまでに構築した品質保証体制はもちろんですが、何より航空機業界は不具合イコール人命に直結するとの考えを、社内で共有しています。人には間違いや勘違いが多くあります。極端ですが、それが即、死に直結すると考えれば、次は必ず同じ不具合を出してはいけないと是正をして行かなければならないという気持ちが大事だと思っています。皆様に日々安全と安心をお届けできれば幸いです。

航空宇宙品質センター（JAQG）様が創設 25 周年を迎えての記念企画として、また第 1 回目の協賛メンバー訪問に、弊社を選んで頂き、恐縮すると共に、大変に光栄なことであり、深く感謝を申し上げます。

6. 最後に

今回が初めての協賛メンバー訪問となりました。開始時に私たち自身の自己紹介が不足していた点は反省点として残りましたが、今回の訪問を通じて JAQG を少しでも身近に感じていただければ幸いです。

お忙しい中お時間を割いていただいた株式会社アオキの皆様には、改めて感謝申し上げます。

以上